

北海道から 岩手県へ

氏名 藤田 生

北海道石狩市立石狩中学校 → 岩手県宮古市立第一中学校

(期間：令和2年4月1日～令和4年3月31日)

1 派遣先の学力向上等の取組

○ 岩手県の取組

・本県では、「学校教育指導指針」という冊子が毎年発行されており、教職員に配付されている。学校教育で取り組むべき重点や各教科等の指導の要点について解説されており、県教委が目指す教育を各学校で推進するための参考資料として活用されている。「確かな学力の育成」に関する記載もあり、教職員の共通理解を図るとともに、手元で確認しながら指導することができる。

・確かな学力の育成に向けて、県教委が掲げる目標は、「つまずきを生かした児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上」。全県共通の取組項目は以下の通りである。

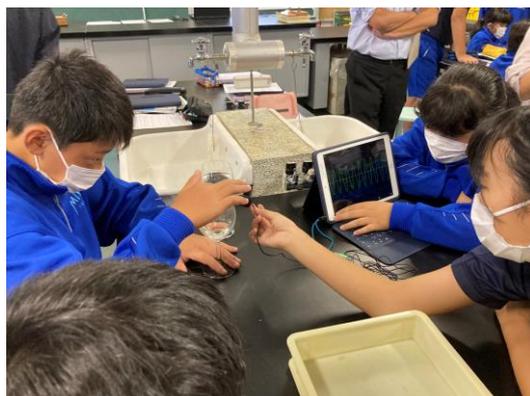
- | | |
|------------------|------------|
| ■ 諸調査結果の積極的活用 | ■ 授業研究の活性化 |
| ■ 家庭学習の内容の充実と習慣化 | ■ 言語能力の育成 |

これらの項目に各学校が組織的に取り組んでいくことを推進している。

○ 市教委の取組

・GIGAスクール構想における一人一台端末の導入を受けて、宮古市教育研究所が「みやこ学力向上ネットワーク事業（ICT教育推進事業）」を立ち上げ、ICT機器の効果的な活用方法についての研究・実践に取り組んでいる。私も研究員をさせていただき、オシロスコープアプリを活用した実践（1年理科）を行い、市内の研究発表会にて実践成果の発信を行った。

※宮古市では一人一台端末にiPadが導入され、ロイロノートという授業支援アプリを使用している。



○ 学校全体の取組

- ・いわての授業づくり3つの視点「学習の見通し」、「学習課題を解決するための学習活動」、「学習の振り返り」を学校全体で意識しながら授業を行っている。
- ・家庭学習については、小中が連携して指導を行っている。小学校から毎日の一人勉強（ノートを使って1ページ以上学習）が課せられており、ノートには自分で設定した「課題」と「振り返り」を書くように指導されている。中学校ではそれに加えて、学校諸費の中からテキスト（学習ドリル）を購入して、毎日の宿題として取り組ませている。家庭学習の平均学習時間は、1学年70分、2学年80分、3学年90分以上として指導している。

2 北海道に戻って実践したいこと

○ ICT機器の有効活用

- ・みやこ学力向上ネットワーク事業に参加させていただいた経験を基にして、ICT機器を効果的に活用する方法について引き続き模索していく。個別最適な学びや協働的な学びを充実させるための手段として、一人一台端末を活用していきたい。

※現任校のある江別市では宮古市と異なり、一人一台端末に **chrome** ブックが導入されており、**Google** が提供する教育ツールを使用している。

○ 組織的に取り組む姿勢

- ・岩手の教育に関わる中で感じたことは、それぞれの団体が組織的に取り組むという姿勢を大事にしているということだ。県教委による学校教育指導指針の発行、市として取り組むICT機器の研究、小中が連携して行う家庭学習の指導など。周囲と共通理解を図り、目標を共有して、組織的に取り組む姿勢を大切にしていきたい。